

2009年7月22日(水)

第一生命経済研究所 経済調査部
副主任エコノミスト 人見 小奈恵

TEL 03-5221-4523

e-mail: hitomis@dlri.dai-ichi-life.co.jp

好調な決算を好感

市場予想を上回る米決算発表を好感して、NYダウは7日続伸、ナスダックは10日続伸となりました。米建設機器メーカーの第2四半期決算は、前年比で売上は▲41%、利益は▲66%と大幅な減収減益でした。しかし、純利益は3.71億ドルと第1四半期の1.12億ドルの赤字から黒字転換となり、EPS（一株利益）は0.72ドルと市場予想（0.22ドル）を上回ったほか、2009年の通期利益見通しを売上、EPSともに上方修正したことから、米景気後退懸念の緩和につながり、株式市場や原油相場の押し上げ要因となりました。一方、米ノンバンクの破綻懸念再燃や米地銀の四半期決算赤字計上などが嫌気されて金融株が軟調だったほか、このところ堅調だったテクノロジー関連株は利益確定売りが優勢となり、相場の重しとなりました。米地銀決算では、ローン全体の約40%を占める商業用不動産部門の不良債権が増加して、赤字幅が市場予想を上回ったほか、貸倒引当金繰入額は9.12億ドルと、第1四半期（4.25億ドル）から2倍以上増加しました。これまで発表された米大手銀行は予想を上回る好決算でしたが、地方銀行については商業用不動産などの不良債権の増加が収益圧迫要因となっていることが確認されました。

米ハイテク大手が引け後に市場予想を上回る好決算を発表し、引け後の夜間取引で大幅高となりました。第2四半期は前年比で+12%増収、純利益は+15%増益となり、それぞれ市場予想を上回りました。同社の業績は、個人消費動向を占う上でも市場の注目度が高く、株式市場にとって明るい材料です。

お昼のバスケット取引は驚くほど閑散

国内株式市場は小幅安で寄りつきました。その後、「英銀行の一部に資本増強が必要」との一部メディアによる報道や米ノンバンク破綻懸念などから、為替市場で相対的に円が買われる展開となり、米株先物も下落基調となる中、下げ幅を広げる場面がありました。ちょうど皆既日食が見られる時間帯だったためか、前引け後のお昼時間のバスケット取引金額は非常に少なく、市場取引の出来高の少なさが懸念されましたが、後場からは、堅調なアジア株も追い風となり、前日比プラス圏へ入り、大引けにかけて先物主導で上昇しました。アジア株の中で特に上昇が目立ったのが中国株で、2日ぶりに年初来高値を更新しました。中国人民銀行が、下期の金融政策について金融緩和スタンスを維持することが確認されたことが市場に安心感を与えました。エネルギー需要増加による業績拡大期待から石油関連株がストップ高まで上昇するなど、株式相場は活況を呈していました。中国上海総合指数の年初来騰落率は+80%を超えています。こうした外部環境にも支えられて、東証一部売買代金は何とか1兆3000億円を超え、日経平均株価は6日続伸となりました。シリコンウエハーの値上げ方針が伝えられて関連企業が上昇したほか、台湾最大の製鉄メーカーによる値上げ観測から鉄鋼株が堅調でした。しかし、相対的に主力大型株は軟調で、中小型株が相場を下支えする格好でした。日経平均株価の6日続伸は約1ヶ月半ぶりですが、その間の上昇率は+5.2%にとどまっており、反発力には勢いが欠けます。米企業決算の最中であり、国内では政治空白の中、様子見姿勢となっています。

以上